

# 2017年東北海区の海況の特徴

奥西武・笥茂穂・長谷川大介・田中雄大・横内克巳（東北水研）

関係各機関及び東北水産研究所の海洋観測結果を用いて作成した月毎の100m, 200m深等の水温分布図、並びに NOAA 衛星の熱赤外面像、Jason-2・Envisat 衛星による海面高度観測結果に基づいた海況の経過の特徴を以下に述べる。近海の黒潮北限位置、親潮第1分枝先端緯度については、1960～2015年までのデータを用いて、平年並み等を定義している。

## 1. 2017年の海況の経過

### 表面水温

北海道南東方および本州東方における7月の表面水温は高めで推移し、それ以外の月は平年並みで推移した。

### 黒潮域

(1) 房総沖での黒潮離接岸は1～4月、6～8月、10～12月はやや接岸～接岸、5月はやや離岸、9月は平年並みであった。

(2) 近海の黒潮の北限位置は、1、4月、7～9月は平年並み、2～3月はかなり北偏、5～6月はやや北偏、10～12月はやや南偏～かなり南偏で推移した(図1)。

### 混合水域

#### ○黒潮系暖水

近海の北限位置は、1月は平年並み、2月に極めて北偏で推移し、3～6月はやや南偏～かなり南偏、7～12月はやや北偏～やや南偏で推移した。

#### ○暖水塊

2010年8月に常磐沖で認められ、2011年秋季より釧路沖で停滞していた2010Gは、2017年2月まで根室東方沖で停滞し、その後、消滅した。2016

年6月に常磐沖で認められ、2016年12月にかけて三陸沖を北上した2016Cは、2017年1～4月にかけて金華山沖に南下し、その後、消滅した。2017年5月に三陸沖で認められた2017Bは、12月にかけて釧路沖東方に移動した。2017年5月に常磐はるか沖で認められた2017Cは、11月にかけて金華山沖に西進し、12月にかけて三陸沖を北進した。2017年7月に三陸沖で認められた2017Dは、8月まで停滞し、9月に2017Cに吸収された。2017年12月に下北半島の沖合に2017Fが認められた。

#### ○冷水域

1～4月、6～7月、10～12月に三陸沖に冷水域が存在した。

### 親潮域

#### ○親潮第1分枝

(1) 親潮第1分枝は、1～4月、6月はやや北偏～かなり北偏で推移した。5月、7～10月、12月は平年並みであり、11月は確認できなかった(図2a, 3a)。

(2) 第1分枝に連なる冷水が5月、8～10月に三陸沖に存在した。

#### ○親潮第2分枝

親潮第2分枝は3月、12月は北偏し、1月、4～7月、9～10月はやや北偏～やや南偏で推移した。2月、8月、11月は確認できなかった(図2b, 3b)。

### 津軽暖流域

6月はかなり弱勢、11月は極めて弱勢、3～5月、7～10月、12月は、やや強勢～やや弱勢で推移した。1～2月は確認できなかった。

2017 年における海況の特徴

- (1) 表面水温は 7 月が高め基調、その他の月は平年並みで推移した。
- (2) 暖水塊 2017C が 5 月に常磐はるか沖で発生し、金華山沖に西進し (~11 月)、その後、三陸沖を北進した (~12 月)。
- (3) 近海の黒潮の北限位置は、6 月までは北偏傾向、その後、平年並みとなった後、10 月以降は南偏傾向で推移した。
- (4) 親潮第 1 分枝の張り出しは 1~6 月は北偏傾向、7 月以降は平年並みで概ね推移した。

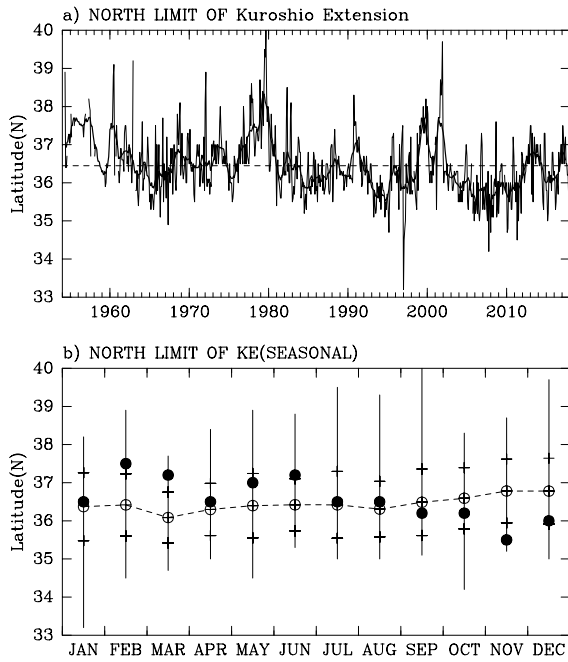


図 1 近海黒潮北限緯度(東経 146 度以西の海域の 200m 深度の水温 14°C の北限経度)。a) は 1954 年からの時系列で、細線は各月における黒潮北限緯度、太線は 13 ヶ月移動平均、破線は平均緯度を示す。b) は 2017 年の月変動で、白丸は各月の年平均緯度、黒丸は本年の先端緯度を示す。

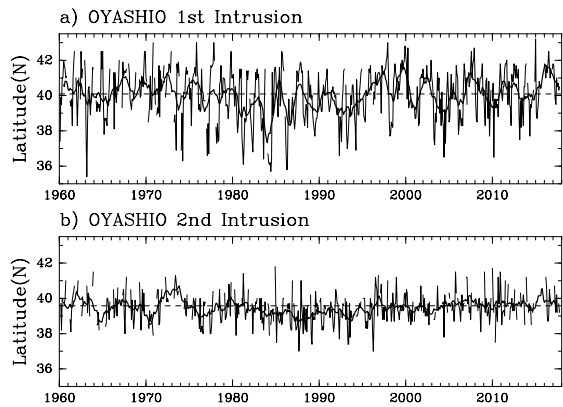


図 2 親潮第 1 分枝先端緯度 (a) および親潮第 2 分枝先端緯度 (b) の時系列。親潮の水は舌状に南方に張り出して来ることが多く、このような舌状の冷水部を三陸地方の沿岸側から、親潮の沿岸寄りの分枝(第 1 分枝)、沖合の分枝(第 2 分枝)と呼ぶ。図は 100m 深度の水温 5°C を基準として冷水部先端緯度を読み取った値を示している。細線は各月における黒潮北限緯度、太線は 13 ヶ月移動平均、破線は平均緯度を示す。

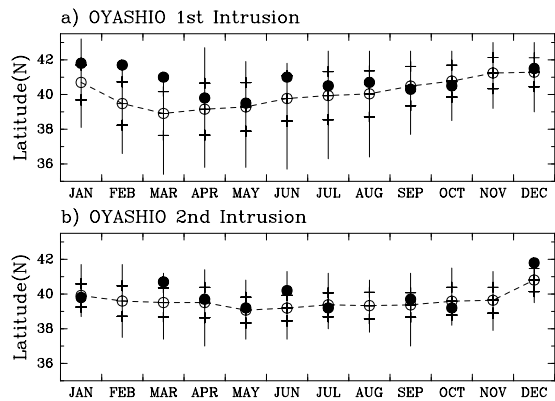


図 3 2017 年の親潮第 1 分枝先端緯度 (a) および親潮第 2 分枝先端緯度 (b) の月変動。図は 100m 深度の水温 5°C を基準として冷水部先端緯度を読み取った値を示している。白丸は各月の平均先端緯度、黒丸は本年の先端緯度を示す。